

事業の基礎情報

実施主体	境港市
事業実施地域	境港市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ 観光・まちづくり
共創パートナー	境港市・境港観光協会・米子空港ビル株式会社・境港医師協会
運行形態	A I 活用型オンデマンドバス（自家用有償旅客運送）
運行主体	株式会社港タクシー、日本交通株式会社、わかとり交通有限会社

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

本市の地域内移動の主な需要は、通勤・通学、高齢者等移動制約者、観光の3点である。特に、高齢者の移動需要の増加や観光客入込数は回復傾向（コロナ禍前300万人）にあるが、それを支える地域交通を担う人材は不足しており、移動需要に対する供給交通モードのミスマッチが大きな課題となっている。現行のコミュニティバスは狭い市内を約70～80分かけて周回（2路線4コース）しており、移動に多くの時間を要し、また、他の交通機関との接続も悪く、市民の移動が制限されている。

本事業では、移動需要の時期・時間帯が様々な上記3点に対応可能な新たな交通体系の構築に向けた実証運行と本格運行に向けたデータ収集を主な目的とする。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

有

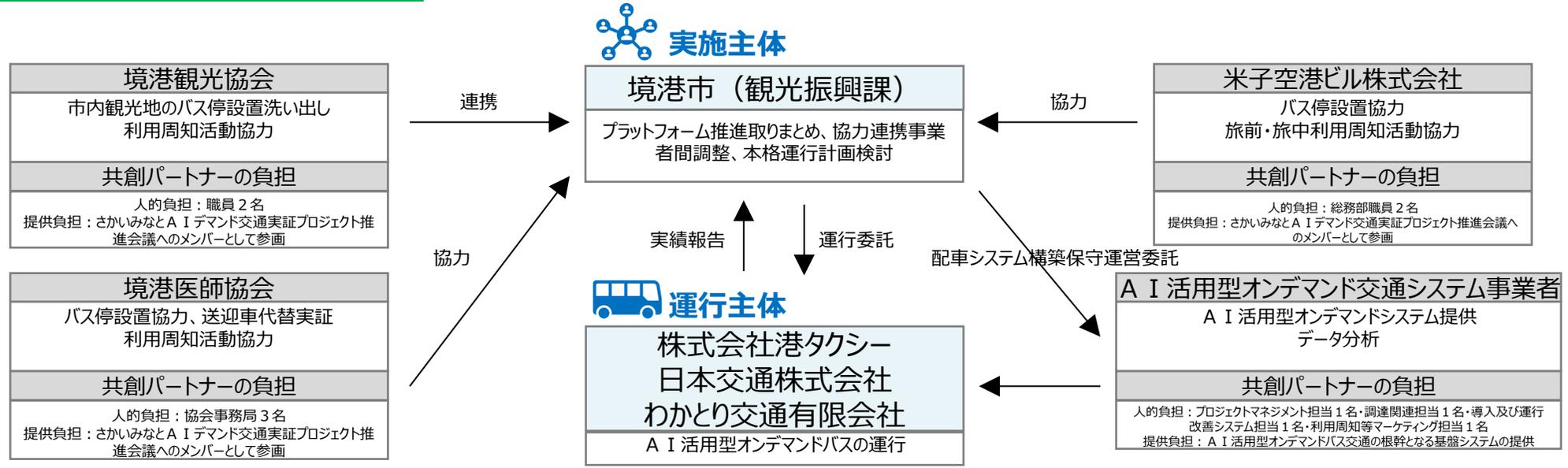
運輸局・運輸支局への事前相談

中国運輸局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

地域公共交通の運営主体である境港市・各運行事業者が主体となり、移動の目的地である各団体・施設と連携し、移動需要を柔軟に追従するAI活用型オンデマンドバスの実証運行を軸に、移動需要と既存交通の供給力の差をデータ収集・可視化し、ニーズ調査による定性分析を実施する。

(地域の関係者との連携・協働)

境港市（観光振興課）は、地域交通・観光の取りまとめ部署として、各団体との調整、(株)港タクシー等に運行委託、地域交通の見直しを実施する。観光協会は市内に点在する観光資源と既存移動手段のミスマッチを是正するため各施設へのMP（ミーティングポイント）設置・協賛の協議を実施する。米子空港ビル株式会社は、市内観光の旅前・旅中の利用周知についてチラシ配布・ポスター掲示・MP設置協力を実施する。境港医師協会は、新たなMP設置及び患者送迎の代替実証・利用周知活動協力を実施する。AI活用型オンデマンド交通システム事業者は、市の事業実施にあたり、システム構築及びデータ分析支援を実施する。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

既存コミュニティバスの他の交通機関への接続の悪さを改善することで、市民・観光客の市内外への移動の利便性が向上し、公共交通全体が活性化する。

事業実施手順・スケジュール

	主体	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主要マイルストーン					▼交通会議(申請)		▼実証運行開始				
コンセプト設計	境港市	事業計画立案									
事業者調整	境港市	運行事業者調整									
MP設置場所協議	境港市・観光協会・空港ビル・境港医師協会		各施設連携協議								
システム構築	AI活用型オンデマンド交通システム事業者				構築1ヶ月半						
MP設置	境港市				各施設・既存MP						
説明会等	境港市・観光協会等					説明会(2回/週)		各施設利用周知協力			
実証運行	境港市						実証運行(5ヶ月)				
調査・データ分析	境港市・AI活用型オンデマンド交通システム事業者							ニーズ調査・分析			
新たな交通体系検討	境港市									体系検討	

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

運転手不足のコミュニティバス【はまるーぷ】・タクシー事業者は、ヒューマンリソース（従業員一人一人）の最適化が図られるとともに、利用者の利便性向上に伴い、既存のコミュニティバスより利用者数が1.5倍程度に増加することが見込まれ、事業収支の改善につながる。

(地域全体に及ぶと想定される効果)

AI活用型オンデマンドバス導入により、適切に移動手段を提供できるため、外出控えの高齢者の健康寿命の増進が図られ、回遊性向上に伴い、観光客の日当たり消費単価の増加が見込まれる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

<input type="radio"/>	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	<input type="radio"/>	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
<input type="radio"/>	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

コミュニティバス【はまるーぷ】のAI活用型オンデマンドバスへの転換に伴う利便性向上による利用者の増加、新たな収入として観光客の利用促進による運賃収入の増加やMP設置協力団体・施設の利用周知活動協力による運賃外収入の獲得により、既存運行経費の圧縮及び収支率の改善を見込む。本格運行後も、共創パートナーが主体的に各関連団体へ積極的に働きかけることにより、共創プラットホームに参画いただける事業者を増やし、本事業の定着化を図る。また、AI活用型オンデマンドバスを活用した施設送迎需要の取り込みを実施し、施設から送迎費用の一部を負担いただくことで、本事業をより強固なものに昇華していく。

資金面	境港市が補助事業にかかる費用および補助事業実施後の費用を負担する。（現在運行しているコミュニティバスからA I 活用型オンデマンドバスへの転換となり、運行経費の圧縮と運賃収入の増加を見込んでいる。）
人材面（運転手の確保）	A I 活用型オンデマンドバスの安定運行のために、既存のコミュニティバスの運転手を活用できるよう境港市が調整する。